長崎大学ファカルティ・ディベロップメント（FD）の改善案書

平成 19 年 10 月 19 日

長崎大学教育改善委員会、大学教育機能開発センター

長崎大学教育改善報告書（FD 報告）（平成 19 年 3 月 31 日付）で本学の FD の活動状況をまとめた。
長崎大学教育改善委員会、大学教育機能開発センターにおいて、本学の FD 活動についての自己点検・評価書（平成 19 年 9 月 11 日付）をまとめた。
ここでは、これを受けて、長崎大学教育改善委員会、大学教育機能開発センターにおいて提案された本学の FD 活動についての改善案をまとめる。

（注）本書では、自己点検・評価書（平成 19 年 9 月 11 日付）の目次に沿って示す。

目次

(1) FD は成果をあげているか。
(2) FD の目的は適切か。FD による達成目標は周知されているか。
(3) 教育改善 PDCA の中に FD は適切に位置づけられているか。
(4) FD 実施テーマは適切か。
(5) FD 実施方法は適切か。
(6) FD（能力・資質開発）実施による改善効果の測定を行っているか。
(7) FD の成果の共有・利用を行っているか。
(8) 長崎大学中期計画に沿って FD を進めているか。FD は法人評価に対応できるか。

(1) FD は成果をあげているか。

（改善案）

PDCA に沿って継続的な改善を行う。
具体的な改善案を以下(2)～(8)の項に示す。

(2) FD の目的は適切か。FD による達成目標は周知されているか。

（改善案）

FD の目的を具体的に明示する。

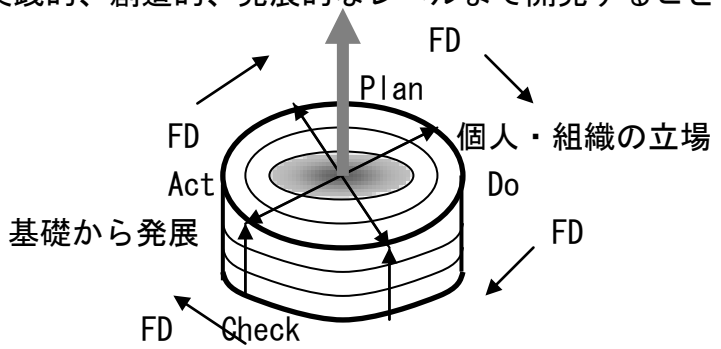
資料 A2.1　　FD の目的

（目的）

授業及び研究指導の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。（長崎大学基本規則第 10 条）

（具体的な目標）

本学の FD の目的は、世界最高レベルの教育・研究を実施するために、授業及び研究指導の目的・計画の設定（Ｐlan)、実施（Ｄo)、点検・評価（Ｃheck)、改善（Ａct）にとって必要な能力・資質を、個人として、また組織の構成員として、入門的、基礎的なレベルから、応用的、実践的、創造的、発展的なレベルまで開発することである。



（FD 受講の立場から）（具体例）

FD の目標は、教育担当個人として、また組織の構成員として、様々な教育改善を図ることにある。

教育担当として

(1)　個人的経歴

新任、10 年経過、ベテラン

(2)　授業担当

全学教育、専門教育、大学院教育

科目分野（語学、人文、・・・・）

授業形態（少人数、講義、インターンシップ、・・・・）

(3)　研究指導担当

卒業研究、大学院研究、他機関との共同研究、TA

組織の一員として

(4)　部局内委員

部局内の委員（計画委員、教務委員、改善委員、評価委員など、部局組織としての立場から）

(5)　全学委員

全学の委員（計画委員、教務委員、改善委員、評価委員など、全学組織としての立場から）

(6)　その他

（FD で改善する事項）（具体例）

FD の目標は、日頃の教育活動の改善、すなわち、授業及び研究指導の計画(Plan)、実施

(Do)、点検・評価(Check)、改善(Act)に係わる事項の能力開発を行うことにある。

教育担当として

(1) 計画(Plan)：担当した授業の実施計画、研究指導計画（教育計画力向上）
(2) 実施(Do)：教授スキル、教材、自習指導（授業実施力向上）
(3) 実施(Do):研究指導スキル、研究発表（研究指導力向上）
(4) 点検・評価(Check)：担当授業科目の達成度評価、答案、授業評価、意見聴取（教育評価力向上）
(5) 改善(Act)：改善策、訓練（教育改善力向上）
(6) その他

組織の構成員として

(7) 計画(Plan)：社会の要求を満足する教育目的、人材育成目的、研究目的、研究指導目的、カリキュラムの設定と周知（教育計画力向上）
(8) 実施(Do)：授業支援、学習支援、環境整備（授業実施支援力向上）
(9) 実施(Do):研究指導支援、TA 支援（研究指導支援力向上）
(10) 点検・評価(Check)：人材育成目標の達成度評価（教育評価力向上）
(11) 改善(Act)：改善のための PDCA 管理、各教育プログラムの改善（教育改善 PDCA 力向上）
(12) その他

(FD カリキュラム)（具体例）

個々の FD の目標は、FD カリキュラムの中に体系的に位置づける必要がある。

入門的、基礎的：教育と方法についての基本的教育知識をもち、教育実践する力
応用的、実践的：様々な状況下で基本的教育知識を応用し、適正に教育実践する力
創造的、発展的：教育と方法の創造活動ができ、FD 講師担当者、FD ピアサポーターになることができる。

(FD 実施形態)（具体例）

個々の FD の目標を達成するために、効果的な実施形態を採る必要がある。

(1) 科目開発型：授業担当者とカリキュラム設計者が一緒に授業、カリキュラムを考える。
(2) 教材型：教材開発、使用方法を考える。
(3) コンサルティング型
(4) ワークショップ型
(5) 授業参観型
(6) 懇談会型
(7) On Line 型
(8) 研究会型
(9) 講演会型：知識をつける。
(10) 企業調査派遣型、海外調査派遣型
(11) 実習型、レーニング型、機器使用技能型：実践力をつける。

（12）初任者対象型：本学の概要、校務システムを研修する。
（13）個人型：教員の個人 FD を通じて能力・資質を高める。
（14）合宿型
（15）その他

（FD 実施担当者）（具体例）
（1） センター （2）学部 （3）研究科 （4）本部 （5）教員個人 （6）その他、学外との連携

（以上のまとめ）

目的	改善者	改善事項	改善ステップ	改善手法
教育改善	・教育担当として ・組織の立場から	PDCA 教育改善	基礎力 応用力 創造力	個人型 科目開発型 教材開発型 その他

（3）教育改善 PDCA の中に FD は適切に位置づけられているか。

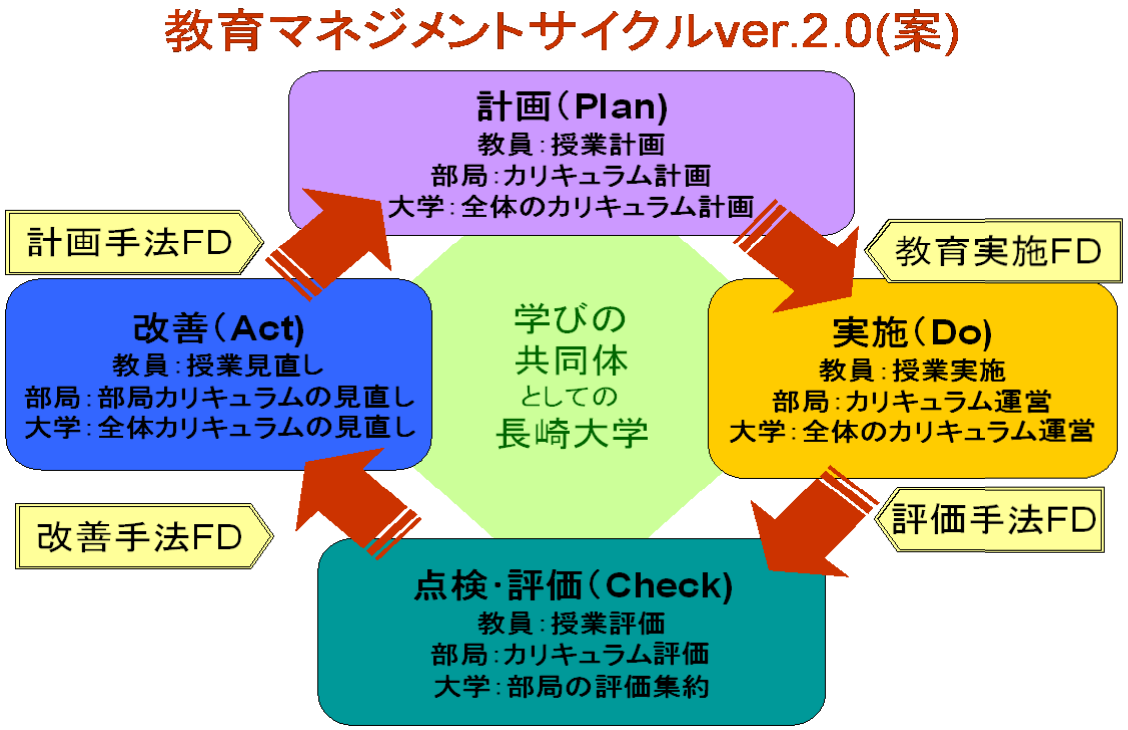
（改善案）

本学の教育改善 PDCA システムの基本形と FD の位置づけ、及び FD そのものの PDCA システムを分かり易く例示する（資料 A3.1、資料 A3.2）。

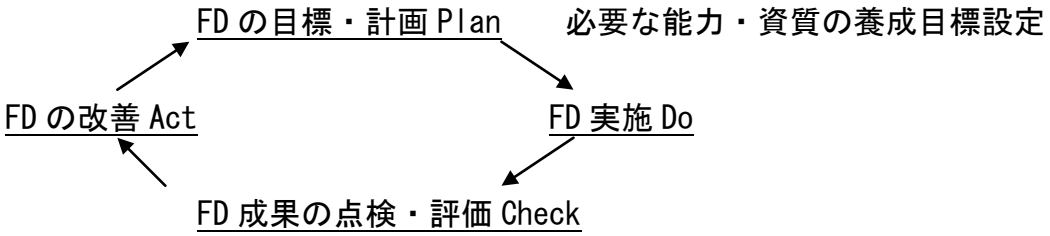
資料 A3.1　本学の FD を機軸とした PDCA サイクル（マネジメントサイクル）による教育改善システムの基本形

本学では、教員、部局、大学の能力・資質開発(FD)によって、より質の高い目的・計画設定(P)→実行(D)→点検・評価(C)→改善(A)を繰り返し、常に最高水準の教育研究を行うことを目指しています。

下図は、この様な「FD を機軸とした PDCA サイクル（マネジメントサイクル）による教育改善システム」の基本形をイメージ化したものです。この新しい図は本学の科目開発型 FD の流れに沿うもので、教員、部局、大学それぞれの PDCA における FD の役割について自己点検・評価書の資料 C3.1（ver.1)、資料 C3.2 を分かり易くしたものです。



資料 A3.2　　FD(教員が個人的、組織的な教育改善を行うための能力・資質開発)改善 PDCA サイクル



(4)　FD 実施テーマは適切か。

(改善案)

FD の PDCA (資料 A3.2) に沿って FD テーマの設定根拠を明示する。個々の教員の FD ニーズの汲み上げシステムを明示する。

語学教育改善や留年問題、不合格率の改善、学習意欲の衰弱など、本学の重点課題に対応した FD テーマを取り上げる。

○FD テーマ設定の根拠：

FD ニーズ調査（大教センター）
本学の自己点検・評価書・各種アンケート等
教員、部局の希望調査
本学の重点課題等（外部評価書）

↓

○必要な能力・資質の養成目標の設定、その成果の検証方法の設定

↓

○FD 体系、FD プログラム、FD テーマ設定

P、D、C、A の FD テーマを体系的に設定する（資料 A4.1）。

資料 A4.1

	具体的テーマ（例）	授業担当として			組織の立場から	
		初任 基礎	応用 実践	創造 発展	部局	全学
Plan	本学の教育理念・研究理念・歴史・概要・規則などの基本的知識を踏まえて、授業計画書・研究指導計画書の作成	○				
Plan	様々な状況下における授業計画･研究指導計画の立案。		○			
Plan	授業計画・研究指導計画の創造と FD 講師、FD サポーターとしての活動			○		
Plan	部局理念、教育目的、研究目的、人材育成目的、体系的教育課程の設定。各種プロジェクトの立案。				○	
Plan	本学理念、教育目的、研究目的、人材育成目的、体系的教育課程の設定、各種プロジェクトの立案。					○
Do	教務システム、本学の教育・学習支援環境の知識、活用。計画に沿った教育活動の実施	○				
Do	教材開発、授業管理、機器の高度使用、学習支援･補習･リメディアル活動の有効な実施。時間外学習指導、オフィスアワー、学外実習指導、TA 指導、研究発表指導、論文作成指導。		○			

Do	教育、研究指導、学習支援、各種プロジェクト遂行における創造的活動、FD 講師、FD サポーターとしての活動			○		
Do	メンタルヘルス、ハラスメント、危機管理、教育・学習の支援活動と環境の整備。各種プロジェクトの実施。				○	
Do	メンタルヘルス、ハラスメント、危機管理、教育・学習の支援活動と環境の整備。各種プロジェクトの実施。					○
Check	授業の達成度評価、研究の達成度評価、授業評価など学生の意見聴取、成績資料の保存、授業実施記録に係わる基礎的事項	○				
Check	授業の達成度評価、研究の達成度評価、授業評価など学生の意見聴取、成績資料の保存、授業実施記録に係わる実践的課題		○			
Check	授業の達成度評価、研究の達成度評価、授業評価など学生の意見聴取、成績資料の保存、授業実施記録に係わる創造的活動と FD 講師、FD サポーターとしての活動			○		
Check	教育、研究の達成度、質の保証と客観的改善指標の設定。点検評価の実施と第三者評価の実施。単位合格率、学習時間、取得資格、留年率、関係者の満足度などの改善				○	
Check	教育、研究の達成度、質の保証と客観的改善指標の設定。点検評価の実施と第三者評価の実施。単位合格率、学習時間、取得資格、留年率、関係者の満足度などの改善					○
Act	教育改善システムの基本的知識と改善活動	○				
Act	様々な状況下における教育改善システムの活用と改善活動		○			
Act	教育改善システムの創造と FD 講師、FD サポーターとしての活動			○		
Act	教育改善 PDCA システムの運用、管理。点検評価に基づく改善策。				○	
Act	教育改善 PDCA システムの運用、管理。点検評価に基づく改善策。					○

（5）FD 実施方法は適切か。

（改善案）

個々の FD の関係を示す FD プログラム（FD カリキュラム）をつくる。FD 科目と履修モデル（必修、選択等の区分け、実施対象者）を作成する。その中でセンターFD、学部等 FD の位置づけ、連携体制を組む。資料 A5.1 に FD プログラム（例）を示す。

大学院 FD の実施方法を確立する必要がある。このためには、大学院 FD を現状では次のように実施することが考えられる。

〇各研究科で実施

〇全学で実施・・・改善委員会で提案し、了承を得て全学で実施する。

FD を受けると確実に教育改善に繋がるように、資料 A5.1 に沿って、対象者、達成目標、実施方法、達成度の評価方法を定める。

教育改善に役立つ FD の内容を充実させる。OnLineFD を充実させる。

例：シラバスの書き方の OnLineFD

授業評価の見方、それに基づく改善方法の OnLineFD

インターンシップの OnLineFD

研究指導 FD の OnLineFD：発表方法、図面作成、・・・

授業管理法の OnLineFD

資料 A5.1　FD プログラムと履修モデル

◎必ず受講が望ましい。〇受講すると役立つ。◇受講すると FD に貢献できる。

	FD 科目（例） （達成目標）	授業担当として			組織の立場から	
		初任 基礎	応用 実践	創造 発展	部局	全学
Plan	◎全学・部局初任者研修 本学・部局の教育理念・研究理念・歴史・概要・規則などの基本的知識。 ◎教育システム概要 授業計画書・研究指導計画書の作成。	◎ ◎				
Plan	〇教育実践 様々な状況下における授業計画･研究指導計画の立案。		〇			
Plan	◇教育研究 授業計画・研究指導計画の立て方の創造と FD 講師、FD サポーターとしての活動。			◇		

Plan	○部局教育・研究指導 部局理念、教育目的、研究目的、人材育成目的、体系的教育課程の設定の仕方と周知方法について理解。 ○部局教育・研究指導プロジェクト 各種の部局教育プロジェクトの立案。				○ ○	
Plan	○本学教育・研究指導 本学理念、教育目的、研究目的、人材育成目的、体系的教育課程の設定の設定の仕方と周知方法について理解。 ○本学教育・研究指導プロジェクト 各種の全学的教育プロジェクトの立案。					○ ○
Do	◎教育システム概要 教務システム、本学の教育・学習支援環境の知識を持ち、活用する。計画に沿った教育活動の実施。	◎				
Do	○教育実践 教材開発、授業管理、機器の高度使用、学習支援・補習・リメディアル活動の有効な実施。時間外学習指導、オフィスアワー、学外実習指導。 ○研究指導実践 TA 指導、研究発表指導、論文作成指導。		○ ○			
Do	◇教育研究 教育、学習支援、各種プロジェクト遂行における創造的活動、FD 講師、FD サポーターとしての活動。 ◇研究指導研究 研究指導、各種プロジェクト遂行における創造的活動、FD 講師、FD サポーターとしての活動。			◇ ◇		
Do	○部局教育・研究指導実践 メンタルヘルス、ハラスメント、危機管理、教育・学習の支援活動と環境の整備。 ○部局教育・研究指導プロジェクト 各種の部局教育プロジェクトの実施。				○ ○	

Do	○本学教育・研究指導実践 メンタルヘルス、ハラスメント、危機管理、教育・学習の支援活動と環境の整備。 ○本学教育・研究指導プロジェクト 各種の全学的教育プロジェクトの実施。					○ ○
Check	◎教育システム概要 授業の達成度評価、研究の達成度評価、授業評価など学生の意見聴取、成績資料の保存、授業実施記録に係わる基礎的事項。	◎				
Check	○教育実践 授業の達成度評価、授業評価など学生の意見聴取、成績資料の保存、授業実施記録に係わる実践的課題。 ○研究指導実践 研究指導の達成度評価、FD 講師、FD サポーターとしての活動。		○ ○			
Check	◇教育研究 授業の達成度評価、授業評価など学生の意見聴取、成績資料の保存、授業実施記録に係わる創造的活動と FD 講師、FD サポーターとしての活動。 ◇研究指導研究 研究の達成度評価に係わる創造的活動、FD 講師、FD サポーターとしての活動。			◇ ◇		
Check	○部局教育・研究指導実践 教育、研究の達成度、質の保証と客観的改善指標の設定。点検評価の実施と第三者評価の実施。単位合格率、学習時間、取得資格、留年率、関係者の満足度などの改善。 ○部局教育・研究指導プロジェクト 部局教育・研究指導プロジェクトの点検評価。				○ ○	

Check	○全学教育・研究指導実践 教育、研究の達成度、質の保証と客観的改善指標の設定。点検評価の実施と第三者評価の実施。単位合格率、学習時間、取得資格、留年率、関係者の満足度などの改善。 ○全学教育・研究指導プロジェクト 全学教育・研究指導プロジェクトの点検評価。					○ ○
Act	◎教育システム概要 教育改善システムの基本的知識と改善活動。	◎				
Act	○教育実践 様々な状況下における教育改善システムの活用と改善活動。 ○研究指導実践 研究指導の改善。		○ ○			
Act	◇教育研究 教育改善システムの創造と FD 講師、FD サポーターとしての活動。 ◇研究指導研究 研究指導の改善に係わる創造的活動。FD 講師、FD サポーターとしての活動。			◇ ◇		
Act	○部局教育・研究指導実践 教育改善 PDCA システムの運用、管理。点検評価に基づく改善策。 ○部局教育・研究指導プロジェクト 部局教育・研究指導プロジェクトの改善。				○ ○	
Act	○全学教育・研究指導実践 教育改善 PDCA システムの運用、管理。点検評価に基づく改善策。 ○全学教育・研究指導プロジェクト 全学教育・研究指導プロジェクトの改善。					○ ○

（6） FD（能力・資質開発）実施による改善効果の測定を行っているか。

（改善案）

FD 実施による改善効果の測定を行う。

テーマ	各 FD 受講者の測定指標	FD の測定指標
P	・資料 5.2 に記載した事項 ・受講者の満足度	・大学、学部、学科・専攻・課程の教育目標の整合性の度合い ・達成方法の計画、達成度と目標との整合性 ・社会、卒業生の意見
D	・資料 5.2 に記載した事項 ・受講者の満足度	・教員の意見、学生の意見 ・指標で表される教育成果を上げること。 a 各授業科目の達成目標を測定する試験の合格率、b 留年率、 c 外部試験点数、d 国家資格合格率、e 資格取得者数、f 就職率、 g 高度専門職業人、h 卒業生の活躍度、iNature 等論文数、 j 卒業生の各種の学会賞受賞数、k 国際的通用度、l 共用試験、 m 卒業試験、n 教育認定、o その他 ・指標で表されない教育成果を上げること。 p 在学生の授業満足感・達成感・卒業生の満足感、 q 就職先の満足感・学生保護者満足感、r 総合力・人間力
C	・資料 5.2 に記載した事項 ・受講者の満足度	・点検書
A	・資料 5.2 に記載した事項 ・受講者の満足度	・各種改善率

FD 受講者の満足度、FD 受講者の改善状況

（7）FD の成果の共有・利用を行っているか。

（改善案）

FD 成果を、年度報告書及び FD 研修テキストなどとしてまとめる。

On-line FD の利用を図る。

（8）長崎大学中期計画に沿ってFDを進めているか。FDは法人評価に対応できるか。

（改善案）

各年度毎の実施状況を踏まえて、達成状況100%として総括する。高大連携FD、専門と教養FD、シラバスFD、全学教育教材開発法FD、授業管理法FD、総合的FD実施体制、FDプログラム開発、On-lineFDの成果をFD報告書にまとめる。

FD報告書の作成

1章　高大連携FD
2章　専門と教養FD
3章　シラバスFD
4章　全学教育教材開発法FD
5章　授業管理法FD
6章　総合的FD実施体制
7章　FDプログラム開発
8章　On-line　FD